

⑤9地域連携道路整備事業—一般国道340号押角峠工区

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 岩泉土木センター

キーワード 既設トンネルの活用、トンネル拡幅、トンネル埋戻

全建賞審査委員会の評価ポイント

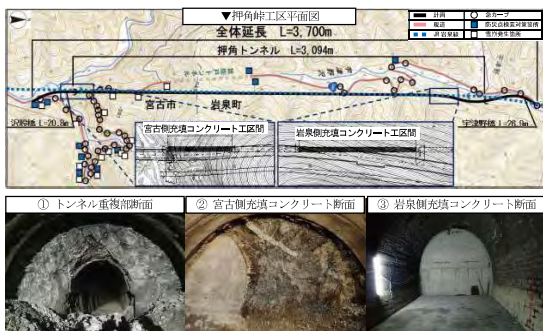
一般国道340号押角峠工区のトンネル整備事業。事業区間に並行する廃線（JR岩泉線）を活用し、鉄道トンネルの拡幅などを実施し道路を構築。現道の線形不良、落石等の危険個所の解消や災害時の緊急輸送道路として、また、復興道路を補完する復興支援道路としての役割を果たしている点が評価された。

1. はじめに

一般国道340号は、岩手県陸前高田市を起点とし、宮古市や岩泉町を經由して青森県八戸市に至る幹線道路である。「岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画」では「復興支援道路」に位置付けられ、「岩手県地域防災計画」では「緊急輸送道路（第1次路線）」に指定されている。さらには国土交通大臣が指定した「重要物流道路」の「代替・補完路」として指定されている重要な路線である。

本路線の押角峠は、宮古市と岩泉町に跨る峠で、幅員狭小、線形不良及び急勾配が多く、かつ落石や雪崩の発生する交通の難所であった。また、平成26年にJR岩泉線の廃線が決まり、バスの代替輸送が実施されているが、隘路のため時間を要し、円滑な通行の支障となっていた。

これらの課題を解消し、災害時における緊急輸送道路としての機能強化、代替輸送の円滑な交通確保、地域間の交流連携の促進を図るため、押角峠工区として平成26年度に事業化されたものである。



既設JRトンネルを活用した施工（平面図・標準断面）

2. 事業の概要

本工区は、押角トンネル3,094mをはじめ、橋梁2橋や前後の道路改良を含めた全体延長3,700mのバイパス事業である。

工区の大半を占める押角トンネルの特徴としては、(1)

延長の約9割を廃線となったJR岩泉線のトンネルと重複させ、道路トンネルに拡幅整備したこと（左図内、写真①）、(2)JR岩泉線トンネル断面が道路トンネル断面と完全に重複しない箇所は、施工の影響領域内にあるJRトンネルをコンクリートで充填したこと（左図内、写真②・③）、が挙げられる。

トンネル断面が重複する箇所では、JRトンネル覆工背面に風化による空洞が存在したため、吹付コンクリートを1層厚20cm程度で順次吹き重ねる対策工を実施し、トンネル断面が重複しない箇所については、掘削径から算出した影響領域内に存在するJR岩泉線トンネルを充填コンクリートにより埋戻すことで、既設トンネルの影響を受けずに施工することが出来た。

これらの対策を講じて施工を進め、平成30年6月にトンネル貫通、同年12月にトンネル築造工事が完成し、その後防災設備工事などを経て、令和2年12月13日に無事供用開始となった。

3. 事業の成果

本工区の整備により、計画区間の延長が約2.4kmの短縮、所要時間が約14分短縮となり、幅員狭小、線形不良、急勾配、落石・雪崩危険箇所が全て解消され、安全で円滑な通行が確保された。



開通式典（テープカット・くす玉開披）

4. おわりに

この事業では、廃線となったJR岩泉線を活用しトンネルを整備するという新たな取り組みがなされた。一度は役目を終えた鉄路が形を変えて、新たな息吹が吹き込まれ、長い間地域の悲願だった道路となった。今後末永く地域に愛される道路となるよう願っている。

賛助会員 (株)奥村組、東日本コンクリート(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)建設技術研究所、(株)菊池技研コンサルタント